

派遣社員をまあ血も涙もないやり方でクビを切った。マス・メディアは、会社の態度ばかりを責める。派遣村と称して、とりあえずの食事や寝る所を用意することを自慢するマス・メディアもあるが、いわば「おためごかし」である。すでに、この立場に立っての「無慈悲さ」については述べた。正規社員の中にも不要なものがあることも書いた。

今回は、それに対する反論を述べる。

まず、たとえば、トヨタ自動車などでは、かつて派遣社員を正規の社員として雇用しようとしたら、当の派遣社員がそれを断った、という話がある。要するに会社にしばられるよりも、いろいろな仕事を渡り歩く方を選んだという事実。そして正規社員が仕事にしばられて働いているときに、それを尻目に海外旅行などを満喫してきたことも事実である。ごく一部だろうが。

また「派遣社員は、どうせ派遣だからと、とくに気に入らない仕事するときなどはかなり杜撰な仕事をする人がいるのだ」という社員がいることも事実である。こういうことは、マス・メディアが書くべきことなのだが、彼らは話を作る、美談仕立てにするために、書かないのである。

さらに「派遣村」に集う人の中には、こういう仕事でないと受けない、などと贅沢をいうのもいるという。希望や要求は、聞くことができる間はいいが、そんなに世の中自分の思いどおりにはいかない。仕事を選ばなければ、いくらでもある。経験の有無も問わない。たとえば第一次産業（農業・漁業など）など後継者不

足で嘆いているのではないか。

かつて昭和恐慌のとき「大学はでたけれど」が流行した。大学卒の半分が就職口がなかったという。学歴が邪魔をするか？ それなら学歴ではなく「前科」みたいなものや。・・・大学で学ぶことなんか、大したものではない。東大の経済を卒業した人の話。4年間学んだことを説明せよ、といわれて書きだしたら1枚で終わってしまった。曰く「価格は需要と供給とによって決定される。」小学校で学ぶことやんか。

高校のときの教師。ちょっと変わった人格の人だったのだが「学校で学ぶことは、あまり役に立たないようだ。英語を学んでも、電車の中で英字新聞を読んでいる人はいない。みんなスポーツ新聞を読んどる！」・・・人格と相俟って爆笑でした。

だから、他人の親切をうけるのもいいが、まず自分の生活の基盤を確固とするものだろう。それから自分の好きなことに挑戦するべきで、そこらの世間知らずのおねえちゃんが「趣味を生かした仕事につきたい」と同じ発想である・・・できればそうありたいものですが。多くはまず生活の安定、家族の生活を優先して、不本意な仕事でもやむなく頑張っているのである。

2009.01.28.